

震災中長期支援 地域精神保健医療福祉システムの再構築への支援者支援～その現状と課題～ 交流会

■日時 平成 24 年 11 月 18 日（日） 10 時 30 分～12 時 30 分

※日本精神障害者リハビリテーション学会 神奈川県大会 3 日目

■会場 神奈川県立保健福祉大学（神奈川県横須賀市平成町 1-10-1）

■参加者 [敬称略]

ご参加いただいた機関：

社旗福祉法人 こころん
一般社団法人 SAVE IWATE
なごみクリニック・センター
原クリニック
社会福祉法人 南高愛隣会 東京事務所
花園大学

以上、現地支援者等 計 15 名

主催者・協力者等： 伊藤順一郎（国立精神・神経医療研究センター）
池淵恵美（帝京大学医学部精神神経科学教室）
後藤雅博（医療法人 恵生会 南浜病院）
鈴木友理子（国立精神・神経医療研究センター）
佐竹直子（国立国際医療研究センター 国府台病院）
安保寛明（特定医療法人 智徳会 未来の風せいわ病院）
武田牧子（社会福祉法人 南高愛隣会 東京事務所）
吉田光爾（国立精神・神経医療研究センター）
佐藤さやか（国立精神・神経医療研究センター）
種田綾乃（国立精神・神経医療研究センター）
中里章子（国立精神・神経医療研究センター）
高原優美子（国立精神・神経医療研究センター）
下平美智代（国立精神・神経医療研究センター）
山口創生（国立精神・神経医療研究センター）

1. 交流会の説明（伊藤部長）

★進め方

この交流会は、「ワールドカフェ」という方法に基づいて行います。

これは、「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいた話し合いの手法です。

以下のような手順で話し合いが行われます。

- ① 趣旨やルールの説明・チェックイン
- ② 話し合っていたくテーマの発表
- ③ 第1ラウンド
グループで話し合う
- ④第2ラウンド
メンバーを変えて話し合い、違った視点を発見する
- ⑤第3ラウンド
もとのグループに戻って、気づきや発見を深める
- ⑥ 全体セッション
グループ全体での集約

2. 各現場でさせていただいたフォーカスグループのまとめ（国立精神・神経医療研究センター）

3. ワールド・カフェ

◆第1ラウンド: グループで話し合う

10:30～10:50
第1ラウンド: テーマについて探求する
グループの皆さんと話し合ってみましょう。

* 対話を楽しみましょう。
* ほかの人の話をよく聴きましょう。
* 意見の違う話も、否定しないで受けとめましょう。
* アイデアや思いついたことを、書く！描く！つなぎましょう！

第1ラウンドのテーマ

皆さんは、昨年以來、メンタルヘルス(精神保健医療福祉)領域を中心に、各現場において、地域コミュニティの再構築に尽力してこられました。

これから1年間ということを考えた場合に、皆さんは各現場において、地域精神保健医療福祉のシステムづくり、あるいは地域コミュニティの再構築のためになにをしていきたいですか？ また、どのような課題を乗り越えていくことが必要でしょうか？

◆第2ラウンド: メンバーを変えて話し合い、違った視点を発見する

10:50～11:15
第2ラウンド: アイデアを他花受粉する

- ひとり(ホスト)を残し、他のグループに移ってみましょう。
- ホストの方は、今までのお話を描いてあるものを見ながら説明してください。
- その後、自由に話を広げてみてください。

* 対話を楽しみましょう。
* ほかの人の話をよく聴きましょう。
* 意見の違う話も、否定しないで受けとめましょう。
* アイデアや思いついたことを、書く！描く！つなぎましょう！

第2ラウンドのテーマ(1と同じ)

皆さんは、昨年以來、メンタルヘルス(精神保健医療福祉)領域を中心に、各現場において、地域コミュニティの再構築に尽力してこられました。

これから1年間ということを考えた場合に、皆さんは各現場において、地域精神保健医療福祉のシステムづくり、あるいは地域コミュニティの再構築のためになにをしていきたいですか？ また、どのような課題を乗り越えていくことが必要でしょうか？

◆第3ラウンド: もとのグループに戻って、気づきや発見を深める

11:15～11:40
第3ラウンド: 気づきや発見を統合する

- もとのグループに戻りましょう。
- お互いに、新たな気づきを持ち寄って、話をふくらませましょう。

* 対話を楽しみましょう。
* ほかの人の話をよく聴きましょう。
* 意見の違う話も、否定しないで受けとめましょう。
* アイデアや思いついたことを、書く！描く！つなぎましょう！

第3ラウンドのテーマ

これから1年間に、皆さんが

①各現場において、地域精神保健医療福祉のシステムづくり、あるいは地域コミュニティの再構築のためにしていきたいこと

②乗り越えていくべき課題

について整理してみましょう。

◆全体セッション: グループ全体での集約

11:40～12:10
全体セッション(Part1): 集約的な発見を収穫し共有する

★いくつかのグループに、話し合ったことについて発表してもらいましょう

- 模造紙を皆さんに見せましょう
- みんなで眺めてみましょう

12:10～12:30
全体セッション(Part2): 集約的な発見からあなたの収穫を発見し、共有する

★「あなたは明日からどんなことをしていきますか？」A4の紙に、大きく、書いてみましょう。(12:10-12:15)

- 紙を見せあって、話し合い、理解を深めましょう(12:15-12:30)

※次頁以降、各グループからの発表内容(まとめ)を掲載

グループA (模造紙: ピンク)

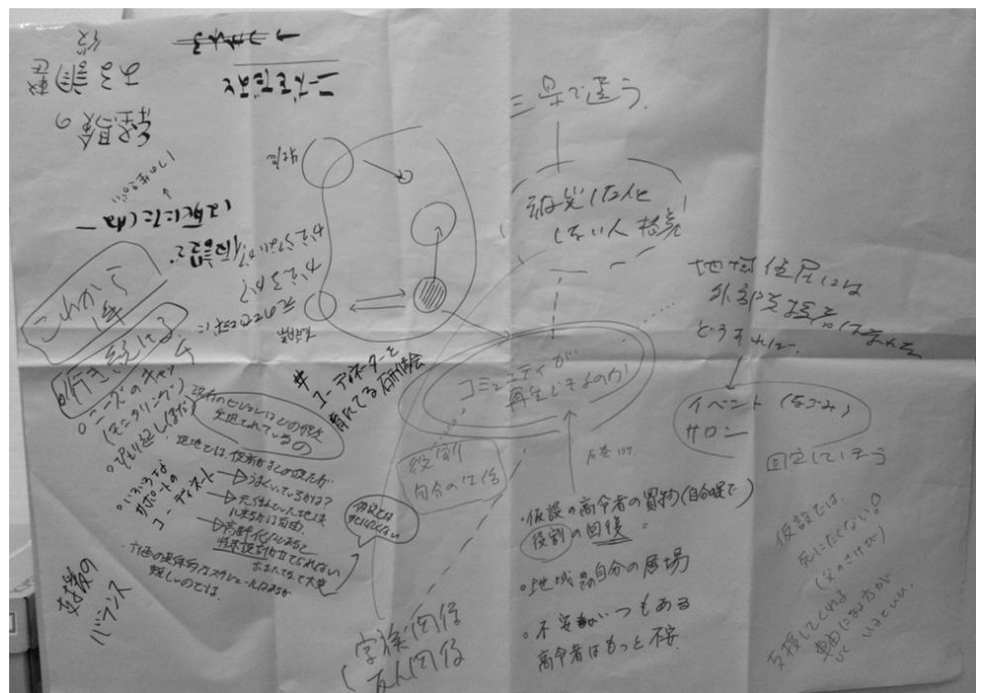
最初の出発点は、(福島-Aサイトの現地支援者の問題提起で) 仮設に住んでいらっしやって、両隣が高齢者さんなのだそうですけれども、もともとご自分の家庭を持ち、買い物や菜園などやっておられたような方などが閉じこもって生活しておられる。もともと支援を受けているような方ではなかったわけなので、何か支援を受ける。たとえば、支援者がつくるような集まりに出て行くなど、そういうこともされていないと、自分で地域での立場をつくっていくということなどが難しいし、見えない。どういう地域ができていくのかわからない。こういう問題があるというお話が出て、「そうだね」という話になったのです。うまく先が見えないのは、「他の地域もそうだね」という話で。

石巻でも、いったん仮設住宅に戻ってきていますけれども、その後、復興していくというところが全然決まっていない。復興会議などでたくさん出ていますけれども、モヤッとしたプランで現実にはどう戻っていくかわからない。自分たちがどういう生活をしていくのだろう・・・全然見えていない。やはり高齢化の社会だという中で、同じような問題が出てきている。これは、第2ラウンドで「やはり同じだね」って。コミュニティが再生できるだろうか、役割や自分生活がどう取り戻せるか、それを支援者が指し示すというよりは、自分たちで見つけることをどうサポートできるだろうという話になってきて・・・私たちも途方にくれて、「支援者に何ができるだろうね」というふうな話だったのですけれども。

そうは言っても、これからの1年で、私たちに何ができるだろうということで、武田さんが言ってくれたことなのだそうですけれども、外からの支援者は、定期的に行き続けていって、ニーズをキャッチして、やれる支援を掘り起こして持ってくる・・・そういうことだったらできるのではないかと。どこも、そういうコーディネーターしてくれるような支援者が必要なのではないかと。だから、現地でコーディネーターする役目の人。心の支援だけではなくて、生活もあるいろいろなことがあって、いろんな支援が入ってきていて、そこがとても難しい。そういうコーディネーターがどういうふうに育っていくのか、もしくは、そのコーディネーターできるような場をどうつくれるのか。

あとは「ニーズを出す」といろいろ言われて疲れる。だから、ニーズ掘り起こされてもちょっとというような、それもどういう支援が送られるかにも関わっているという、疲れないような経験がある人がうまく調整してくれるような支援がいいというような話だったり、いろいろな支援が入ってくるバランスをどうするのかということだったりなど・・・そういう現地のコーディネーターを育てる。外から入っているいろいろな支援をコーディネートする。そういう人は、どういう専門性やどういうバックグラウンドやどういう技術を持っている人がうまくいくのだろうか、と。人柄ということもあるかもしれないけれども、そこを知りたいというふうな話だったのです。

あとは、当事者の立場の方からも支援してくれる、軸になる人がいるといい。いろいろな人がいろいろ言っているのも困る。やはり、普段の支援と同じかもしれないけれども、「これもあるよ」、「あれもあるよ」と言ってもらえる中で、選べるようにサポートしてもらえるといいなという意見も出ました。みんな「なかなか難しいね」と言いながら話をしました。



グループ B (模造紙: 白)

グループで話し合われたことを、かいつまんでお話ししたいと思います。

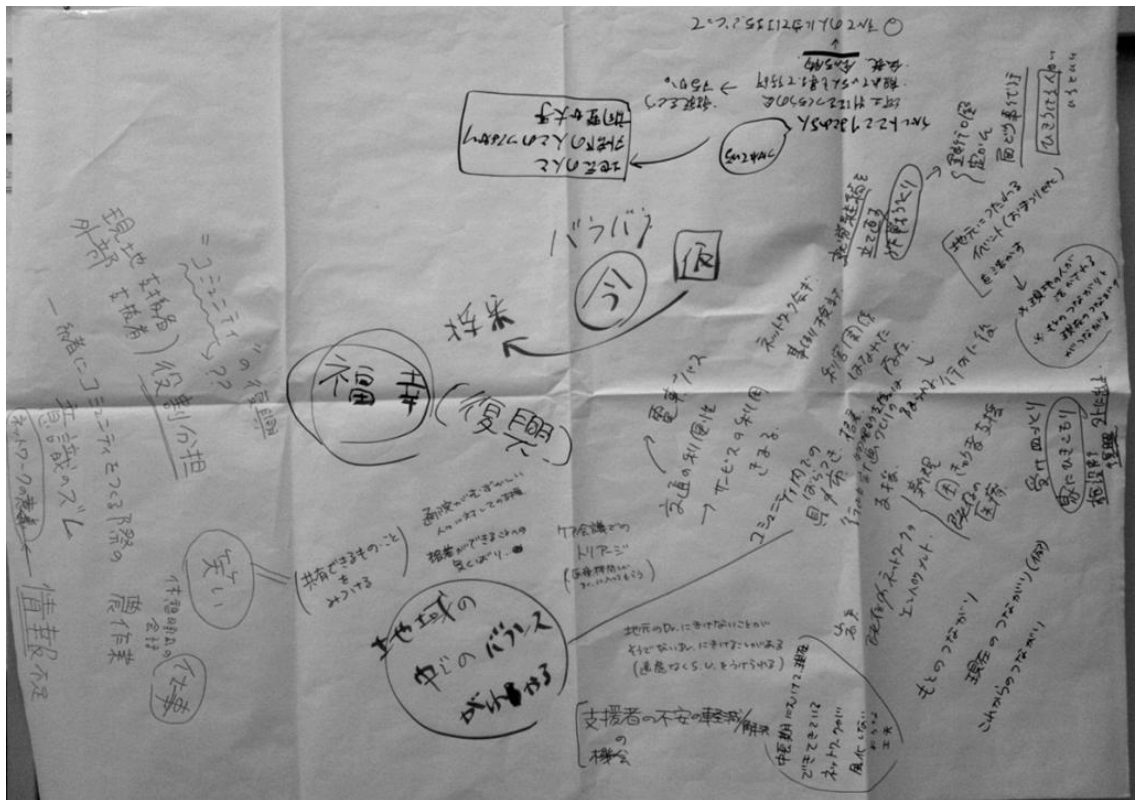
いくつか話題になったのですが、後半いろいろ踏まえて話題になっていたあたりで、支援者支援と関係が深そうなところかというと、今、避難している方やご苦労されている、震災関係でお住まいや職場が変わっている方は、もとのつながりがある、現在のつながりがある、たぶんこれからのつながりというのは存在するのだけれども、それぞれが別々になっている可能性がある。たとえば、元のつながりでつなげようとしても、今のつながりだけつなげようとしても、逆に、これからのつながりだけつなげようとしても、なかなか難しいことがありそうなのではないかという話題があり、それがいくつかアイデアなどにつながっていました。

たとえば、こっちのグループで話題になったケースとしては、地元につながる郷土料理やお祭りなどをうまくイベント性のあるものにして、つながりをつくっていくというアイデアがあったり。あとはこちらと共有できるものとして、たとえば、笑いを求めるグループやコミュニティがあったりするということが、ケースとしてありました。

そうすると、今あるつながり、現在のつながりというところだけを見ていると、かえって見落とすかもしれないので、過去と現在と未来との中で、いろいろな人たちが共有できるものやことを見つけるといことが、もしかしたら一つテーマになるかもしれないということがありました。これは、支援者支援でも、もしかしたら当事者支援でもそうかもしれないということを感じました。

ただ、そのときにはコミュニティがどういうふう存在するか、格差ができていたりなど、そういう可能性に心配りする必要があるのではないかということも少し話題になっていて。

そうすると、さっき少しあちらでも話題になりつつあったのですけれども。たとえば、行政計画に対して、専門的な人や中立的な人が入るといのも、一つの支援者支援になるかもしれない。あと、利害関係から離れたり、地元で何かやる時に、そういうのはかなりエネルギーを要するので、エネルギーが必要なところに集中的に支援が入るといの方が、もしかしたらいいのかもしれないなど、いろいろなアイデアが出てきたのですけれども。今話してきたようなところが中心になってきたのかなと思います。



グループC (模造紙: 黄)

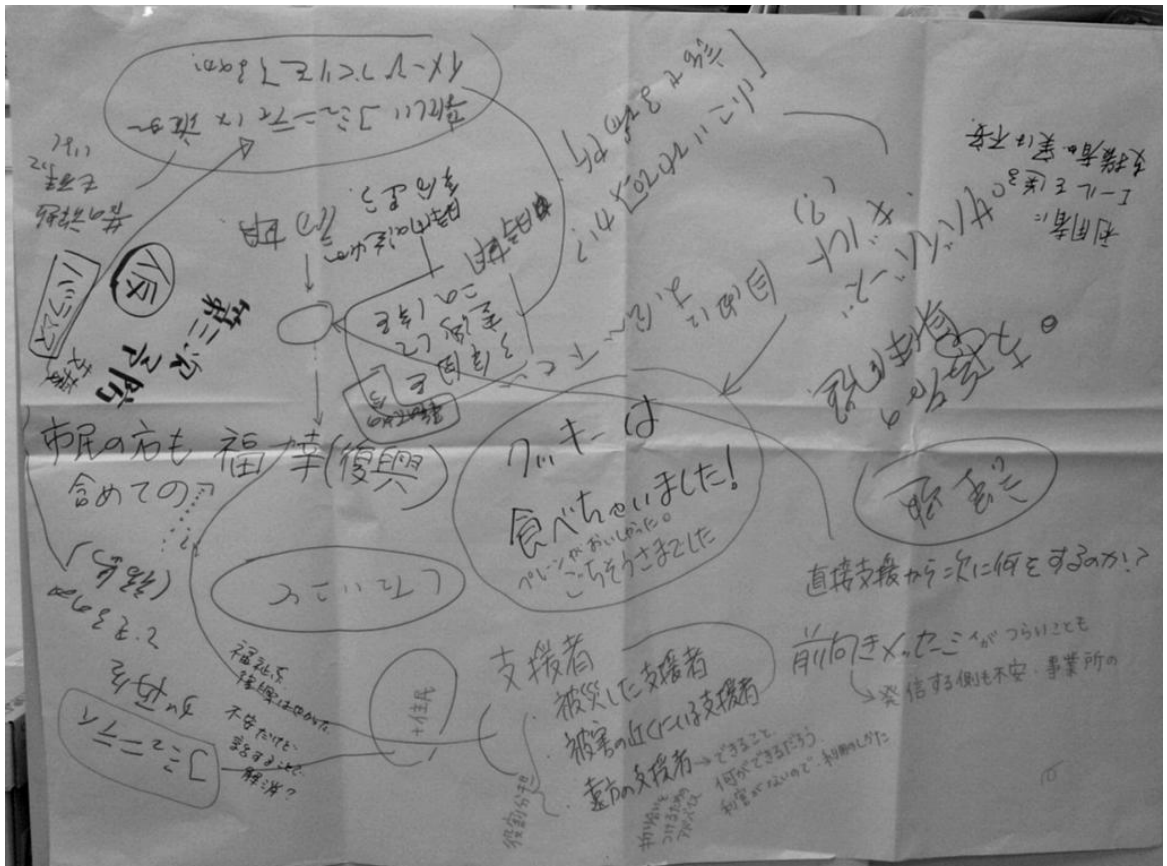
私たちのところでは、最初に出た課題としては、支援者の体の問題。あとは、したいことの方では、市民の方もみんなで復興していくというところが出ました。

課題としては、支援者のことというところでは、支援者の中でも、被災した人がいたり、被災した近くに住んでいる人や県内だけだったり。あとは、遠くから来てくださっている人がいるというところで、課題かなというのがあったのです。話しているうちに、それぞれ役割分担をしたりしながら少しずつ折り合いをつけていくといいのかなというところが出ました。

あとは、支援者の支援でというか、地域の人たちの支援での課題というのが、前向きなメッセージ、「頑張ろう、頑張ろう」というのばかりではなくて、まず現状を肯定したり、やっと話ができるようになったという人たちの意見なども大事にしていきながら、地域の人たちも支えていきたいというところが出ました。地域の人たちのつながりなどというところでは、コミュニティとはなんだろうというのが結構話題になりまして、もとの地域の人が、完全に同じところに住めるわけではなく、戻るところも決まっていなくてもいいかなというところでも。

もっと、10年、20年かけて、少しずつ新しいコミュニティをつくっていくというところで。しかし、それを誰がするのだろうかというところで、市町村などが考えていることと私たちが考えていることは、やはりずれていたりもするし、地域の人がどのぐらいかけてできるのかというのわからないところなので、それは課題ではあるけれども。

最終的に、私たちが何をしていけばいいのかなというところでは、あと1年と考えると、何をしようと流されてしまいがちだけれども、2年後にこういうふうになりたいから、そのためにこの1年をどう使うか。さらにそのあとは、3年後にこういうふうになりたいから2年後はこういうことをしたいというふうな、少し区切りをつけつつ、来年があるから、そのために、今、何をしようというふうにと考えると、少し流されないでやっていけるのかなというところになりました。



グループD (模造紙: 緑)

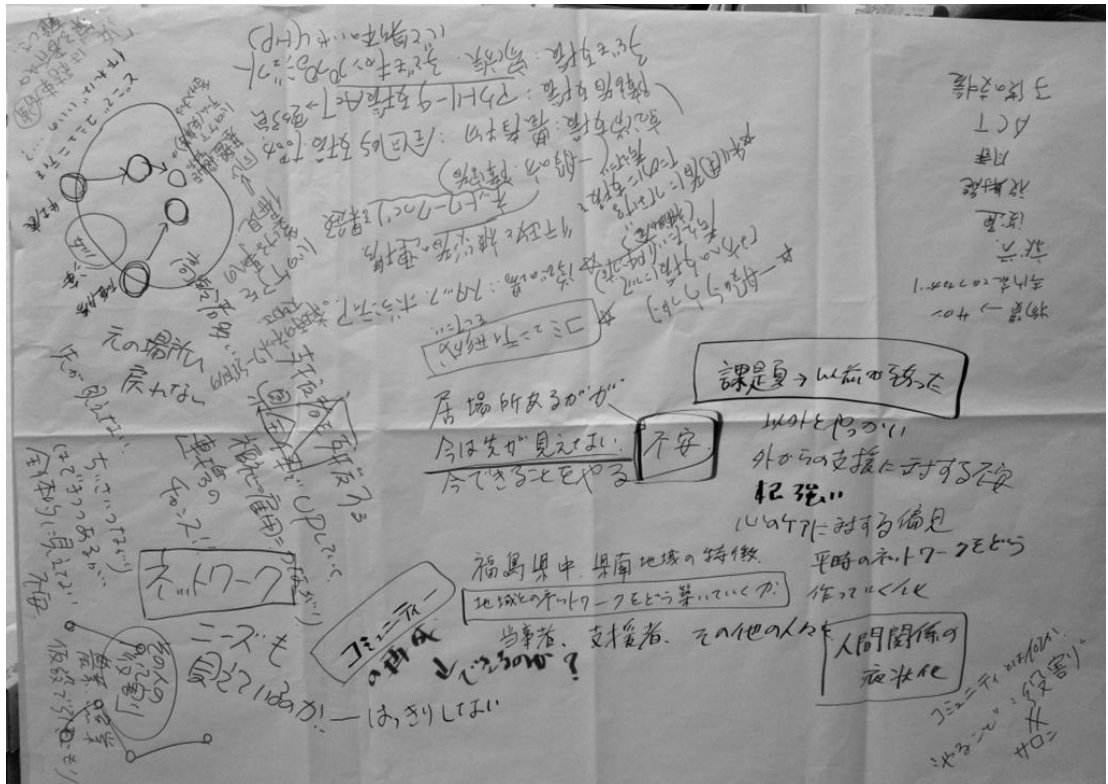
私たちのチームでは、課題をどういうふうにするかということなのですが、避難した方たちというのは、今、とりあえず住む場所、いる場所はあるのだけれども、先がどういうふうになるのだろうかという大きな不安があるということです。

それから、さらに個々の復興支援の形として、ネットワークづくり。特にコミュニティの再生をどうしていくかということです。今後は、当事者、それから支援者、その他の企業やそういう人たちとの再生です。その中で、新しく支援に入る人とそれを受ける人ということで、その辺のところ非常に温度差があるのではないかとということです。それには、その支援者と地域を取り持つ人というものが必要になってくるということで、その大きな課題というものは、今回の震災でいろいろと出てきました。

たとえば、避難している間のアルコール依存の問題だったり、うつ的な人が増えてきたり、パチンコ屋さんが非常にはやってきたりというようなことなのではありますけれども。そういった課題というのは、震災を機に表面化されたものであって、それは、もともと存在していたものなのではないかなということです。とてもよかったと思うのは、人間関係の液状化というところで、その持っていった課題が、この震災を機にいろいろな支援を受けることによって、その地元の人たちの考え方などが浮き彫りにされたのが、今回の大きな課題として新たに出てきたのではないかなというようなことです。

それから小さいつながりは、あちこちで生まれていて、いろいろなところとのつながりは、今回の支援を受けることによってできたつながり。それから、これまであったつながりなどがあるのだけれども。たとえば、それが具体的になってくれば、非常にわかりやすいのだけれども。まだその過程には至らなくて、それがどういうふうになっていくのかということが見えないということで、今後の大きな課題なのではないかなということです。

それから、コミュニティの再生ということですが、それぞれの地域によってバラバラなのだけれども、違う地域の人同士。たとえば石巻なんかは、違う地域のいくつかが合併していたので、それぞれ違う文化があり、その人たちが避難して、新しい避難地に移られ、さらに今後のコミュニティどうするか。それは、福島県もそうなのだけれども、いわき地方に戻るのか、中通りに町をつくるのか、今、いろいろ摸索しているところです。それは、たった2年間という避難所の期限があるそうなのだけれども。そのままでは、非常に難しいのではないかとということです。もっと長くかかるのではないかとということです。そういう人たちが、新たに生きていく場所をつくるということは、非常に困難で大きな課題なのではないかな、ということです。



震災シンポジウム・交流会 参加者の声(まとめ)

◆震災シンポジウムについて

- ・他県の状況はなかなか情報が入りにくいので、さまざまな情報が聞けたことが良かった。
- ・他県の情報がわかってとても良い企画でした。今後交流会が各地で出来ればと思います。
- ・普段は伺えないお話を聞くことができ、貴重な経験をさせていただきました。
- ・他県の支援内容が見えてとてもよかったです。同県内や関係機関の連携は大切ですが、被災県3県の連携も必要だなと思いました。
- ・各県取り組みや今後の予定・方針案を聞いてよかった。
- ・なかなか地元の支援から離れて、他の被災地の状況や支援の在り方を知る機会がなかったので、とても勉強になりました。
- ・他県での活動を知ることができ、とても良かった。自分たちの活動と重なる部分もあり、(自分の中で)新しい取り組みを聞けることができた。
- ・最近、現地の状況がわからなかったなので、状況を知ることができて良かったです(まだまだなこと等)。
- ・私自身の理論不足が良くわかり、大きな課題でした。
- ・外部からの支援者の支援は本当に期待しています。
- ・被災された方、支援する方、支援者支援する方、それぞれのお立場、考えがあると改めて思いました。
- ・多方面での支援の話が聞いてよかった。これからの活動が一般の人々にどのように役立っていくのか。
- ・時間が少し短かった。
- ・時間が短かった。フロアともう少し話がしたかった。
- ・議論の時間が足りなかった。
- ・様々な支援が入られていることを知りました。もっと時間があつたらいいなあと思いました。

◆交流会について

- ・立場(現地職員 or 遠方からの職員)によって、思いや抱いている問題が違っていることに気付かされた。「ワールドカフェ」を初めて体験しておもしろかった。思っていたよりたくさん喋ることができた。
- ・とても良い企画だと思います。もう少し時間があればよいと思います。
- ・時間が欲しかったです。
- ・ワールドカフェ方式の企画がよかった。コーヒーやお菓子が欲しかった。
- ・とても有意義で楽しい時間でした。これを縁に・・・と言われて、是非現地に来てほしいなあと思いました。考えの中でやはり色々な考えがあり、温度の違いが薄れていくいい機会になったと思います。
- ・楽しくいろいろな人と交流ができ、いろいろな考えも聞け、参考になった。
- ・他県の現状・課題等、直接支援している側から聞いて、いろいろ感じ、考える材料になった。また、自分の地域にいたるだけでは見えてこない課題も、他県の方と話すことで見えてきた。とても良い刺激になった。
- ・地域が違えば、状況も違うと考えてしまいがちだったが共有できるところがとても多く、安心感ももてた。今後も続けて、つながりを持ってたらよいと思います。
- ・とても面白く有意義でした。
- ・みなさんの思いが様々で面白かったです。もっと聞きたいなあと思いました。
- ・前半のシンポジウムから客観的に、現地の状況をうかがうことができ良かったです。これから自分に何が出来るか、明日から考えていきたいと思います。
- ・他の人の意見を聞け、自分の考えをまとめる良い機会でもあり、とても楽しかったです。
- ・おもしろかった。当事者—支援者—外部支援者で交流できてよかった。
- ・私は当事者です。当事者や被災地のことを真剣に考えてくれている。感動です。それを返すのは前進していくことです。福島を見守って下さい。
- ・いろいろな考え方をお聞きして、今後の支援や考え方に活かしていきたい。とても楽しくできました。
- ・新しい気付きを起こしてくれた。
- ・テーマについて(普段の仕事上)あまり考える必要がない立場で仕事をしているので、個人的には難しいテーマでした。
- ・気楽に話し合いが出来て良かったです。皆さんこれからについて頭を抱えていたので安心しました。

◆今後、交流会に参加したいですか？

- 参加したい . . . 11名 (58%)
- やや参加したい . . . 6名 (32%)
- あまり参加したくない . . . 0名
- 参加したくない . . . 0名
- 無回答 . . . 2名 (11%)

◆今後、交流会の開催における希望

- ・お茶があるともっと楽しいと思いました。
- ・冬じゃなければいつでも！
- ・各サイト同士の交流を希望します。
- ・被災地から離れた場所での交流がいいのでは？
- ・現地プランの評価や有意義性の話し合いやイノベーションの検討等時間をとってやれたらいいなあと
思います。どうもありがとうございました。
- ・震災関連のつながりの場を継続して開催していただきたい。
- ・どこでもいいし、やり方はお任せしますが、開催してほしい。
- ・グループは半日くらいあるといいのか、でも長すぎるかも。
- ・半年後にもう一度同じメンバーでやって振り返ればいいのではないかと思います。やりっぱなしで
はなく . . .
- ・またやってください。もう少し時間が欲しい。
- ・被災地で支援者同士の交流は初めてでしたのでこういう機会があったらいいと思いました。
- ・コーディネーターを育てる研修を。
- ・現地コーディネーターの研修会などの開発をしてほしい。コーディネーターの制度を使ってもよいの
では。